

神に賞賛される生き方 継承 「何を伝承するか」

I テモテ：1~5

■ テモテへの手紙

かつてのパウロはユダヤ教のパリサイ派に属し律法に従いキリスト教徒を迫害していました。しかし、イエスキリストの愛に触れられ、罪を赦された者として自分を「罪人のかしら」と告白し、イエスキリストからの『きよい心と正しい良心と偽りのない信仰とから出て来る愛』に生きるようになりました。そして、自分がされたように人々に寄り添い、キリストの福音を伝え続けました。

パウロは何年にも渡って伝道旅行をし、新しい教会を建てました。この働きのために同労者を集め、その一人がテモテでした。テモテは、異邦人のギリシャ人の父とユダヤ人の信仰深い母との間に生まれた混血の若者でした。純血のユダヤ人であるパウロには受け入れ難く思えるようなテモテでしたが、テモテを選び、テモテのイエスへの熱い思いと献身にパウロは心打たれ「信仰による真実のわが子テモテ」と言うほど愛し、後継者として育てました。パウロは、幽閉投獄されている自分がいずれ殉教していなくなる前に、イエスから受け継いだ心を後継者に継承していかなければいけないと思っていました。継承は、親の役割・リーダーの役割です。親やリーダーも、やり方ではなく「心」を子たちに教えていきましょう。エペソの教会で、偽教師がイエスについて間違った教えを広めていると報告を受けたとき、パウロはテモテを牧師の役割をする者として派遣しました。そして、手紙を送りました。このときの手紙の執筆目的は、①エペソの若い伝道者へのフォローと指示（金持ちや要職者の多いエペソ教会での若きリーダーがどう牧会するか）、②教会の問題、偽教師に対する対応、祈りと正しい答え（間違った教えを説いている人たち・果てしない空想話と系図に心奪われて議論し争う男たち、着飾ってばかりいる女たちへ、祈りと正しい答えにどう導くか）、③教会内の条件と種々問題に対する対応、のためでした。

聖書の「I テモテ・II テモテ」「テトス」は、牧会書簡＝教会はどのように牧会するかを教えた書簡と言われています。テモテへの手紙のテーマは、①リーダーへの助言（継承）、②偽教師への対応、③教会のリーダーの資格、④自らの心の養い⑤間違った禁欲的生活⑥教会の牧会、です。ここから学んでいきましょう。

■ 本質に戻す

イエスキリストは罪人の中に向向き、その心を受け入れ、その人の人生を変える働きをされました。私たちの役割も、問題を批判したり、指摘したり、関わらない様に排除するのではなく、共に生きて解決者となっていくことです。

愛し合うべき教会内での、大きく批判し合い大きくズレていることも、小さい批判で小さくズレていることも、どちらも罪の大きさに変わりはありません。問題を見つけたとき、批判するのではなく、愛して解決してください。教会内で問題の解決者となったあなたは、世の中に出て行っても、神の愛を流し解決者となってください。

例えば、ばら寿司も良くない祭りごとですが、贅沢が出来ない昔、祭り時のばら寿司の下に、母が栄養失調の子供に栄養のあるものを忍ばせて食べさせていたものでもありました。ばら寿司を伝えていく本質は、母の愛です。排除するのではなく、しかし神様と隣人を愛する本質においては妥協せず、その他のことについては受け入れ、世のその間違った中に生きて良いものに改善していくのです。

タバコを吸う人は、止めなければいけないと頭では分かっているが、ガンになろうともなかなか止められません。「can not＝できない」のではなく、本当は「will not＝したくない」の

です。変化を起こすことは、過去の自分を否定し罪を認めることでありストレスなので、変化を起こせないのです。パリサイ人も変化を起こすイエスキリストを嫌い憎みました。あなたの周りのズレているものを本質に戻す。それが私達が目標とする愛の姿であることを、パウロは後継者であるテモテに伝えていきます。

■ きよい心、正しい良心、偽りのない信仰

私たちは「きよい心、正しい良心、偽りのない信仰」をもっているか考えなければなりません。神様があなたに命令（律法）を作ったのは、あなたを愛に戻したいからです。律法を通して、私たちが罪人だと知りなさいと言われていました。私たちは全ての律法が守れていないにもかかわらず、自分は正しく間違っていないと思う汚い心を持ち、人を裁く罪があります。姦淫の罪の女を人々が石打ちの刑にしようとしたとき、イエスキリストは「この中で罪のない者だけが、石を投げなさい」と言われました。罪のない人はおらず、みな石を置いて去りました。自分に罪があると分かるから、そこで初めて「きよい心」を知るのです。「正しい良心」は、心の中で片隅に追いやられているかもしれませんが、自分が間違っていることを知ったとき、正しい良心があったことを知るのです。信じてると言いながら疑っているかもしれませんが、「偽りのない信仰」の信仰とは自分の罪が私の身代わりのイエスキリストの十字架の贖いで赦されたと信じることです。律法を見て、自分は罪人だと気づき、神の前に出て悔い改めたとき「きよい心と正しい良心と偽りのない信仰」が与えられます。それは、愛から出てきているのです。

イエスキリストは復活後のエマオの途上で、弟子たちに言って気づかせるのではなく、イエスから離れてしまい忘れてた熱い思いを自分たちで気づき取り戻すまで寄り添われました。言って気づかせたのでは意味がないからです。

あなたは、イエスキリストに愛された、赦された罪人です。パウロが、我が子と言えない血統のテモテに「我が子よ」と言いました。同じように、神様は、罪人である私たちを「我が子よ」と言い愛しているのです。

■ さいごに…

パウロは、テモテに心を伝えました。監督とは、リーダーとはどうあるべきか、パウロの生き様を通して心を教えました。あなたは、この世を組織を関わっている人を愛していますか。自分のほうが正しくて世や人が間違っていると批判して裁き排除していませんか。パウロは、ユダヤ人でありながら、できていない人を裁くのではなく、卑しい皮なめしの仕事をその人々といっしょに同じ気持ちになり、信頼関係を築きイエスキリストの福音を伝えました。信頼が心を開いていくのです。パウロはその人のコミュニティに入り心の中に入り宣教しました。これが愛なのだ、と、テモテに伝えました。イエスキリストも30年間、社会のコミュニティに適応されました。的を外しているものを元に戻す、最善に導くのがあなたの仕事です。まずは、あなたが神の御前で元に戻りましょう。そして、こちらのコミュニティに引き込むばかりでなく、コミュニティに出て行き、愛して戻していきましょう。仏式の葬式のような間違っていると考える場にも、排除して行かないのではなく、愛して、故人や遺族のために祈り慰め励まし、偶像礼拝はせず、最善を行いましょう。イエスキリストから受けた愛で、パウロから学んだものから、あなたの生き様を通して、次の後継者に伝承していきましょう。

(要約者：高橋 奈津江)

(2022年2月6日)